

物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会プラズマサイエンス小委員会

(第 25 期・第 8 回)

議事要旨

日時：2023 年 9 月 11 日（月）10:00-11:30

場所：遠隔会議

出席者：小澤 徹、疇地 宏、伊藤 公孝、犬竹 正明、木村 芳文、笹尾 真実子、常田 佐久、福本 康秀、藤澤 彰英、堀 勝、三間 罔興、山崎 泰規、吉田 善章、岩田 夏弥、陰山 聡、金子 俊郎、坂本 隆一

配布資料： 議事次第

資料 1：プラズマサイエンス小委員会 第 7 回 議事要旨

資料 2：見解「プラズマサイエンス」最終案

(1) 前回議事録の確認

- 令和 4 年 10 月 31 日に開催されたプラズマサイエンス小委員会 第 7 回の議事録を確認し、承認した。

(2) 「見解」の発出に関して

- 第 7 回小委員会での議論を反映して作成した見解の原稿の査読プロセスを終え、今期発出される見込みである。査読プロセスにおける科学的助言等対応委員会からの助言および査読コメントを紹介するとともに、それらを反映した最終案について説明がなされた。主な改訂としては教育に関する主張を控えた点である。

(3) プラズマサイエンスの発展のために必要な事項

上記議題に関し意見交換が行われた。以下に主要点を示す。

- 見解の社会的認知度を高めるためシンポジウムなどフォローアップが必要であろう。シンポジウムなどのフォローアップ第 26 期への引き継ぎ事項としておくことが望ましい。また、今後個々人が行政や様々な場で、本見解を役立ててくれることを期待する。
- 教育に関する主張が抑えられたことは残念であるが、SDGs においても注目されているプラズマサイエンスが初等教育や大学前期課程に重要であることは注目すべきであろう。ジェンダーバランスも重要な点であるが、その解決には学際化および国際化が

重要な鍵である。一方で、背景にあるジェンダーバイアスに踏み込まなくては解決しないとの議論もなされていることに注意したい。

- 広報のため本件見解の一枚もののまとめがあるとよい。